

脳卒中の医療連携体制（ステージ別）

区分	初期対応施設	急性期施設	回復期施設	維持期施設	
				維持期入院施設	維持期(在宅医療提供)
機能	<ul style="list-style-type: none"> 急性期施設基準に該当しないが、急性期脳卒中の診療が可能な施設 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の救急医療の機能を有する医療機関 	<ul style="list-style-type: none"> 回復期リハビリの機能を有する医療機関 	<ul style="list-style-type: none"> 生活リハを含めた療養医療を提供する機能を有する医療機関 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療を提供する機能を有する医療機関
目標	<ul style="list-style-type: none"> 急性期脳卒中のトリアージができる t-PA治療の適応患者の推定及びクモ膜下出血の診断が可能である 	<ul style="list-style-type: none"> 発症後4.5時間以内に専門的治療開始 早期リハビリ実施 	<ul style="list-style-type: none"> 機能障害改善・ADLの向上等回復期のリハビリ実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生活機能維持・向上等維持期のリハビリ実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生活機能維持を目的とした在宅医療
基準	<ul style="list-style-type: none"> 直ちにCTが撮影できる。 脳卒中急性期施設と速やかに連携が取れる。 脳神経外科医・神経内科医又は脳卒中専門医等の脳卒中に精通した医師がいることが望ましい。 治療ガイドラインに則した診療を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 24時間対応可能なこと。 脳梗塞の場合、t-PAによる脳血栓溶解療法又は脳血管内治療が実施可能なこと。 廃用症候群や合併症の予防セルフケアの早期自立のためのリハビリテーションが実施可能なこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法、作業療法、言語聴覚療法等のリハビリが専門医療スタッフにより集中的に実施可能であること。 再発予防の管理、抑うつ状態への対応が可能なこと。 脳血管疾患等リハビリテーション施設基準を取得している。 回復期病床がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅復帰を支援するため居宅介護サービス等を調整すること。 治療ガイドラインに則した再発予防の治療、基礎疾患・危険因子の管理、抑うつ状態への対応が可能なこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護サービス、訪問看護ステーション、調剤薬局等と連携した在宅医療。 治療ガイドラインに則した再発予防の治療、基礎疾患・危険因子の管理、抑うつ状態への対応が可能なこと。
連携等	<ul style="list-style-type: none"> クリティカルパス等の活用による診療情報や治療計画の共有 				